

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174700831		
法人名	特定非営利活動法人 いけだケアセンター		
事業所名	グループホームのどか		
所在地	中川郡池田町字利別西町21-6		
自己評価作成日	平成 27 年 3 月 12 日	評価結果市町村受理日	平成27年4月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームのどかでは、全員が毎日のように町内周辺の散歩を行い、日光浴や季節感を味わっています。また、「のどか合唱団」を立ち上げ、歌を歌っています。お年寄りが中心になって色々な歌を歌いながら昔話にも花が咲きます。食事は野菜など繊維のあるものを多く取り便通も良く、肌の調子もよいです。「のどか菜園」では、お年寄りとスタッフの共同作業でトウキビ・大根・人参・かぼちゃ・トマト・豆など色々な野菜を植えています。いつも楽しく笑顔の絶えないグループホームを目指しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0174700831-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 27 年 3 月 23 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームのどかは、平成15年に1ユニットのグループホームとして利別小学校に近い住宅地に開設されました。その後もっと多くの認知症高齢者が安心して住み慣れた場所で暮らすことができるよう平成22年に1ユニットを増設し2ユニット18人の利用者が暮らす現在の体制が構築されました。開設時の営利を目的とせず、地域に貢献していくという精神は現在の職員にも受け継がれており、利用者の穏やかな生活の継続と、毎日楽しいことで笑い合えるよう一日の過ごし方を工夫しています。職員は介護技術の向上と、レクリエーションや外出支援に力を入れています。利用者ができることを見つけ、ホームで暮らす一員としての喜びを得られるようコミュニケーションを大切に毎日を送っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は掲示し、常に来訪者等に見える形で掲示している。管理者・職員はその理念を共有し、実践につなげる努力をしている。	法人としての理念とケアの理念を定めています。理念はホーム内に掲示するとともに重要事項説明書にも記載し、家族等にも周知しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日、ホーム周辺の散歩を行い、挨拶を交わしている。温泉一泊旅行・お花見ツアー・動物園・向かいの小学校の行事等に参加している。	町内会に加入し、2ヵ月に1回のどかだよりを近所の人に配布しています。近隣の催しのポスターをホームに掲示したり、利用者とともにいろいろなところに出かけています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に「のどかだより」を発行。地域の人に配布。認知症の理解や支援の方法を伝え、活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でサービスの取り組み状況について報告や話し合いを行っている。サービス向上にも活かしている。	運営推進会議は2ヵ月毎に利用者、家族、地域包括支援センター職員や地域住民を交えて開催しています。会議の開催案内と議事録は全家族に送付しています。	運営推進会議は定期的に行われていますが、勉強会や地域を学ぶ教養講座、避難訓練などとなっています。ホームの状況や事故報告などを交え、参加者から助言を得ることも会議の視点としては大切な部分です。家族の参加者の拡充とともに、内容の検討を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に町担当者に参加してもらっている。在宅推進ケア担当者会議にも出席している他、日頃から密に連携・協力関係を築くように取り組んでいる。	役場の保護課との連携を取り、利用者に必要な手続きを行っています。また、ケースワーカーも定期的にホームを訪問しています。管理者が2ヵ月おきに開催される在宅推進ケア担当者会議に出席し、意見を交換しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及びすべての職員が居室や日中、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。「帰宅願望」の利用者には、見守りと一緒に外出を心がけ、鍵をかけないケアに取り組んでいる。また、抑圧感のない暮らしの支援にも取り組んでいる。	「身体拘束排除宣言」を掲示しています。ホームでは身体拘束を行わない方針で、会議などで申し合わせを行っています。身体拘束排除の外部研修には2年前に職員が参加しています。ホームはユニット毎に別々の建物となっていますが、玄関の施錠は防犯のため夜間のみ行っています。	身体拘束の廃止についての研修は、今年度虐待防止研修の中で触れていますが、ホームでは身体拘束を行っていないという事が前提となっていますが、身体拘束にあたる具体的な行為の確認等を含め職員全員が確認できる機会を設けることが期待されます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、身体的にも精神的にも虐待を必要としないケアの実践に取り組み、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は、ホーム内研修で取り組んでいる。日常生活自立支援事業は利用させてもらっている人もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、十分な説明を行い、理解・納得をさせてもらっている。疑問点についても同様である。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や運営推進会議等で運営に関する意見を述べる機会を設けている。ここでも意見や要望を運営に反映させている。	家族の来訪時に利用者の様子を伝えたり、毎月の個別の報告書を家族に送付しています。ホームの玄関にある意見箱のほか、家族と一緒に参加する行事を行い家族の意見を引き出しています。2ヵ月毎の「のどかだより」には利用者と地域との交流の様子や今後の予定も記載しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングノートやスタッフ会議等で職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。	朝夕のミーティングと毎月ユニット毎に行われるスタッフ会議で職員からの意見を取り入れています。また、運営推進会議にも職員が多数参加しており利用者や家族等を交えた会議なども実施しています。利用者の外出行事の行先などの要望を反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境づくりに努めている。(給与水準・労働時間等)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内外の介護に関する研修は勤務状況を把握しながら、参加してもらっている。職員は持ち回りで月1回、テーマを決めホーム内研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会は、グループホーム協議会で相互研修を行い、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できるだけ事前に見学に来て頂き、他の利用者や職員と顔見知りになり、なじみの関係ができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを利用する段階で家族等が困っていること、不安や要望はできる限り聞き、受け止めるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応では、本人及び家族の要望を聞き、必要としている支援に沿うような対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、利用者とスタッフが一緒に楽しく過ごすことの一環として、食事作りでは、洗い方・切り方・味付け・盛り付け等、お互いに学びあい、支えあう関係ができるように努めている。また本人と時間をかけて関わっていきけるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方にできるだけホームに来てもらい、本人との関係を大切にしながら、共に支えあう関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームに入居後、本人が会いたい人がいたり、墓参り・命日・自宅等、行きたい所があれば積極的に出かけられるよう支援している。	利用者の要望を受けて、自宅への外泊や一時帰省の支援をしています。居室に家族に会いに行く旅行の目標を貼って準備期間も楽しみながら、利用者が遠方の家族との交流を続けられるよう支援しています。また、継続して道外の旅行に行けるよう支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が、ともに助け合い、支えあって暮らしを楽しめる支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	経過終了時には、必要に応じて、フォロー。入院の際には、準備や面会その他の相談等支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活の制約はあるが、利用者のペースに沿って見守りながら、本人の意向を実現出来る様に努めている。	普段の生活の中から意向をくみ取るようにしています。センター方式のアセスメントを活用して、利用者の気持ちを考え、職員が共有しながら支援を行っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の趣味や以前の経験を暮らしの中に活かし、その人の力を発揮してもらうようにしている。(菜園・絵・縫物・調理等役割を持ってもらっている)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分で出来る力を持っていても依存しがちな方には、気持ちよく、自発的にやってもらえるよう言葉かけを心掛けている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン会議の中で話し合い、検討している。この中で本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	半年毎に施設サービス計画と、利用者の出来ることを踏まえ、詳細な介護内容を記載した生活援助計画を作成しています。利用者ごとに担当職員が決まっており、ケアプラン会議やケース記録をまとめています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録やスタッフ日誌に記入し、申し送り等、職員間で情報を共有し、実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族のニーズに対応して、希望や要望に沿って柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の心身の状況を踏まえて散歩や買い物時に、入居者が通る道の安全確認を行っている。利用者が心身の力をできるだけ発揮しながら、安全で豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に利用者・家族と話し合い、受診する医療機関を個別に決めている。(受診は、本人及び家族等の希望を聞きながら支援している)	利用者毎に入居前からのかかりつけ医の受診をすることができます。通院は家族が付き添って行っています。必要に応じて職員も同行し利用者の日頃の様子を医師に伝えたり、医師の診察結果を踏まえた支援を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内には、看護師がいない。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族の希望を聞きながら、病院との連携を図っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師がいない為、終末期ケアは取り組んでいない。	契約時に最期までの希望に対応することを伝えていますが、地域医療の状況などの関係もあり看取りは行っていません。病院へ移行する場合は協力医療機関の十勝いけだ地域医療センターへつなげています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回程度ではあるが、消防署の協力を得て、利用者の急変時の初期対応の訓練を行っている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施している。消防署、町内会等地域の方にも協力して頂いている。	運営推進会議の日程に合わせて年2回の避難訓練を行っています。職員が帯広市で行われた災害対策研修会に参加しています。備蓄は非常持ち出し品や水などを備えています。	年2回の避難訓練を実施していますが、さらに安全に避難するための誘導方法の検討が期待されます。今後は、ホームのユニットが別々の建物となっているので、ユニット間の連携などについても事前の打ち合わせを進めることが期待されます。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーや希望を大切にしながら、場面ごとに本人の力を発揮してもらうように支援している。	ホームでは「のどか5ヶ条」を定め、利用者の尊厳のある暮らしを支えるよう取り組んでいます。利用者の他人に知られたくないことや羞恥心などに配慮した支援ができるよう、職員会議などで話し合っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物では茶碗・箸・日用品・衣服等、職員と一緒に出かけ、本人が買いたい物を選ぶように支援している。また、自己決定もできるように働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムに配慮しながら、起床や入浴時間。食事にかかる時間等について、本人なりのペースで行えるよう柔軟に対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整髪の手助けや、ペンダントをつけたり、ネックチーフを巻く等、おしゃれに配慮している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞き、肉が苦手な方が多い為、変わりに魚を出す様にしている。盛り付けやテーブル拭き等は、利用者と職員と一緒にやっている。	献立は決めずに、ユニット毎にその日の食材で献立を決めています。生鮮食品の買い出しには利用者も一緒に出掛け、食べたいものを選んでいきます。盛り付けや片付けなども利用者が参加し、生活の一場面を楽しんでいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量は、ケース記録に記入している。水分量は、水分排泄表に記入し、把握出来る様にしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、毎食後行っている。困難な方は、状況に合わせて職員が毎回、確認するなど口腔内の清潔保持に努めている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄表を作り、チェックしている。排尿パターンを把握して、さりげなく声をかけ、見守りと誘導自立に向けた支援を行っている。	トイレでの排泄の支援を基本としています。オムツを使用している場合でも、自立に向けた検討を行っています。排泄チェック表を活用し、それぞれのパターンを把握し、声掛けによる誘導を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	戸外への散歩による適度な運動やレクリエーションでの体操及び食材等で、自然排便に力を入れている。繊維質の多いものを食材として取り入れている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回以上、午後から入浴している。できる限り、同性の職員が対応し、羞恥心等への配慮をしている。（曜日や時間帯は、職員の都合で決めてしまう事がある）	利用者の一番風呂の希望などを取り入れ、入浴の支援を行っています。週に2回の入浴を基本とし、必要な場合にはシャワー浴などにも随時対応しています。家族を交え、温泉旅行にも出掛けています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩に出かけたり、掃除や食事づくりなど、日中の活動を通して、個々に合わせた生活のリズムづくりを行っている。日中でも、ちょっと一休みできるよう、リビングにソファを置いている。又、心身の状態に応じて、自室で休んでもらう事もある。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の係りを決めているが、利用者本人の処方箋が添付された服薬管理表を作成し、全職員が薬の内容を把握できるようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「のどか菜園」や「のどか合唱団」などがあり、楽しみ事となっている。お客様が見えた時は、利用者の方が、お茶を出し、喜ばれている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を肌で感じてもらい、心身の活性に繋がるように、毎日の散歩・ドライブ・映画・温泉・コンサート・買い物・外食と利用者の希望に応じ、支援している。	毎日の散歩を日課にしており、利用者も楽しみにしています。洗濯物を外に干したり、買い物などにも頻繁に出掛けています。毎月2～3回は池田町内の様々な催し物に出掛けています。帯広動物園など、利用者が行きたい場所にも機会を見つけて出掛けています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方には、財布を持ってもらっている。ホームでお金を預っている方が多いが、買い物の時は、本人と一緒にいる。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかって来た時は、必要に応じて本人に出してもらっている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に咲く花を飾っている。共同生活空間は、リビング等テーブルやカウンター等に季節に応じて花や置物が飾ってあり、生活感や季節感がある。	ホームの建物は同一敷地内に2棟に分かれており、それぞれが独立しています。のどかⅡは相談室や職員休憩室も設置され、全体的に少し広めの設計になっています。両棟とも、自然光を取り入れる大きな窓があります。浴室も介護しやすく、利用者も安心してお湯につかることができる和式の浴槽や、福祉用具なども活用しています。「のどか」は調度品のしつらえも懐かしい雰囲気、「のどかⅡ」は築5年で明るい雰囲気になっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファのコーナー・テーブルとイスの場所・畳敷きのコーナー等、それぞれの居場所に工夫があり、利用者は一人ひとりに合わせて思い思いの場所で過ごしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンス・写真や賞状・絵等。これまで使っていた物や思い出の品が持ち込まれ、居心地よく過ごせるようにしている。	利用者の居室には、懐かしい品に囲まれて安心して暮らせるように使い慣れた家具などが持ち込まれています。家族の写真、収納ダンスやテレビなど思い出の家具があります。地震などの際に倒れて怪我につながったり、避難経路をふさがないように職員が配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は利用者にとって普通の環境と安心から自立した生活を送れるよう配慮している。			